



更年期障害について

●更年期障害とは

日本女性の多くは50歳頃に閉経を迎えます。閉経前後の45～55歳頃の約10年を“更年期”と言います。更年期になると卵巣の働きが低下して、生理の周期が不規則になり、やがて閉経に至ります。

卵巣の働きが低下するにつれて女性ホルモンの1つであるエストロゲンが低下しますが、このホルモンバランスの変化によって起こる様々な症状を“更年期障害”と言います。

●症状

更年期障害では、下図1のように多彩で不安定な症状が現れます。このような症状は閉経後1～数年間続きますが、体が適応すると次第に軽くなります。

また、閉経後の急なエストロゲンの低下により骨粗しょう症が進み骨折しやすくなる、コレステロール値が高くなり心臓・血管系の病気になる、などの危険性が高くなります。

【図1】更年期障害の症状



●治療

エストロゲンを補うホルモン補充療法、漢方薬、それぞれの症状に対する薬などにより、状態に応じて治療が行われます。またエストロゲン剤だけの使用では、子宮体がんや乳がんの危険性が高まると言われており、プロゲステロンというホルモン剤を併せて使われることが多いです。

更年期障害だと思っていたら実は内科や精神科の病気であったり、更年期だから生理不順なのかと思っていたら子宮がんの出血であったりすることもあるので、気になる症状がある場合は早めに産婦人科を受診されることをお勧めします。

更年期は体力・生殖機能は衰えますが、知的能力・情緒面では充実期を迎え、この年齢にある女性は人間として最も円熟し、能力を発揮できる時期でもあります。適切な治療を受けて快適に過ごせるようにしましょう。

